



## まちづくり活動計画書

### 1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	名古屋外国語大学オープンスペースデザイン研究会
まちづくり 活 動 名	「好き」を目指す！
活 動 地 域	名古屋市名東区上社
活 動 の 背 景	<p>(団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。)</p> <p>上社駅周辺には、集合住宅や一般住宅は多くあり、店舗もありますが、人々が滞留できるような場自体がありません。人は住んでいながら、活動がない場所になっています。ゼミナールの活動でまちづくりと観光について学ぶことになったことがきっかけです。1年以上、上社駅を使用していますが、上社駅周辺にはお店はあっても地域住民で楽しく共に時を過ごすという場を見かけていません。つまり、そこにはコミュニティはないに等しいのではないかと考えました。そこで私たちが考えた活動を通し、住民の声に寄り添ったよりよいまちづくりを行いたいと考え、この団体を設立しました。</p>
目的・目標	<p>(活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください)</p> <p>■目的 既存の価値観に囚われず、私たちができる限りの新たな発想を生み出し、住民同士で今までとは異なったコミュニティを作るきっかけをつくること。</p> <p>■目標 住民が自分のまちが好き、または居心地がいいと思えるようなきっかけを作ること。</p> <p>■成果 得たい成果は、元々地域にあった歴史のあるものが壊されないように新しくすることで地域住民の関心を得て、地域住民がそのまちに愛着をもつことができること。見込まれる成果は、まちがにぎやかになること。まちへの関心を向上させること。また、コミュニティのきっかけをつくり、年齢、性別関係なく親交が深まること。</p>

活動内容	<p>(上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。)</p> <p>1. 住民が自分のまちが好きになるためには↓</p> <p>地域の課題はコミュニティのきっかけがないことであると考え。よってコミュニティの場をつくることによってストレスが緩和し、地域住民のまちへの満足度が高まると考えられる。よって、屋台や路上アートを通し、住民の声を聞く機会を得ることが目標である。この屋台は、夜に上社駅周辺に流れている植田川の周辺で出店する予定である。植田川の周辺で行う理由は、「サウンドスケープ」という考え方もあるように、川の流れには心を落ち着かせるという利点があるからだ。川周辺をライトアップしたり、人が話せるスペースをつくったりする。また、屋台で出品するものは、その土地で生産された農産物の販売を行う予定である。日中では一時的な路上アートや、動画鑑賞、人工芝生を置き道路にくつろげるスペースをつくる。</p> <p>2. これらのイベントを開催するにあたり、チラシの配布やホームページの開設などを行う。</p>	
活動予定期間	2022年6月～2023年3月	
助成金交付申請額	50,000円	※1回目(上限5万円) ※2回目、3回目(上限10万円)

## 2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

<b>審査基準①</b> <b>必要性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざしたまちづくり活動内容か</li> <li>・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か</li> <li>・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か</li> <li>・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か</li> </ul>
<p>(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <p>・名古屋市名東区は、名古屋市内、長久手市、日進市内に通う多くの大学生が居住する土地だが、必ずしもそのポテンシャルがまちの活性化につながっているとは考えられない部分があると考え。特に、若者の力を活かした魅力的で地域の人々と協働する活動は、必ずしも多くない。この活動を通し、地域住民間での繋がりがもて、これまで気に留めなかったものがまちを良くするための要素であることに気づけるきっかけになるのではないか。</p> <p>・助成金を、チラシの作成や道路アートに使用する道具、屋台の代わりにするテントや机を借りるために使用し、人を集め、まちを盛り上げるためのイベント活動を行いたい。自分たちで考えたプロジェクトであるため、最後まで自分たちの手で作り上げたいが、大学生にとっては高額である。よって助成金が必要である。</p>	
<b>審査基準②</b> <b>実現性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が具体的になっているか</li> <li>・活動内容の資金計画などは妥当か</li> <li>・人員や規模などは妥当か</li> </ul>

(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

・私たちのゼミでは、名古屋市内、また名古屋市周辺の市町村での場作りを継続的に行ってきた。また、こうした活動を継続的なものとするべく特定非営利活動法人を 2019 年度から運営し、他の NPO、民間企業、行政等と連携したまちづくり活動を行ってきた。このメンバー以外にも、ゼミ生は約 30 名おり協力体制は万全であるため、実現性は高いと考えられる。また、私たち学生だけでなく、名古屋市民やさまざまな方々と連携しているためよりよい活動をつくり出すことができると考えられる。

・助成金を超える部分については、自己負担で活動を行う。

・この団体はこの企画を実現するために、月に一度は会議を行う予定である。

**審査基準③**

**発展性**

- ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
- ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか

(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。)

・この活動をさらに発展させるために、人員を増やすことや、チラシやホームページを活用し多くの人にこの活動を知ってもらおう。

・1 回目の活動実施後、2 回目の活動に向け、地域住民の方にアンケート調査を行い何に興味があるのか、どのような地域イベントをしてみたいかなどの意見を聞く。

・この活動を行うことで、住民同士の交流が深まると考えられる。

3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容

※第 2 号様式は 3 ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

## まちづくり活動の実施スケジュール

- ・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。
- ・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2022	4		
	5		
	6	助成金決定後の打合せ	メンバーと今後について共有をする。
	7	広報実施	チラシの作成と配布
	8	活動実施1回目	屋台と路上アート1回目
	9	活動に対する反省会と打ち合わせ	次に生かすための反省会とそれに沿った企画の変更
	10	広報活動実施	チラシの作成と配布
	11	活動実施2回目	屋台と路上アート2回目
	12	反省会と活動報告	反省会と改善点の話し合い。来年度の企画の話し合い
2023	1	打ち合わせと提出	書類提出の準備
	2	今後の予定の打ち合わせ	来年度のまちづくり活動に向けた話し合いを行う。
	3	今後の予定の打ち合わせ	2月同様。また、4月の企画に向けての話し合い。

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

## まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費目 手引きの費目を参照	活動項目	内訳・算出根拠	金額 (円)	
<b>まちづくり活動助成金（申請金額）</b> ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円			50,000	
活動経費の内訳	賃貸費	まちづくり屋台	テント $8,000 \times 2回分$	$16,000$ $(8,000 \times 2)$
	賃貸費	活動	椅子 $2,000 \times 2回分$	$4,000$ $(2,000 \times 2)$
	物品費		人工芝生	3,000
	消耗品費		路上アート用チョーク	10,000
	印刷費	広報活動	チラシの作成と印刷費用 $1,000 \times 2回分$	$2,000$ $(1,000 \times 2)$
	謝金		土地を借りた人への謝礼 $10,000 \times 2回分$	$20,000$ $(10,000 \times 2)$
<b>支出合計</b>			55,000	

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。